



## 400 年の時空を超えた交流

(公財) 慶長遣欧使節船協会代表理事  
河北新報社代表取締役社長  
一力 雅彦



伊達政宗公の意を受け、支倉常長ら遣欧使節団一行が日本人として初めてキューバ・ハバナの地を踏みしめたのは、1614 年 7 月 23 日でした。それから 400 年目の同じ 7 月 23 日に、仙台育英学園高校宮城野校舎で記念行事が盛大に開催されることは、大変喜ばしく、歴史的にも大きな意義があると考えます。

資料によると、常長一行のハバナ滞在は 8 月 7 日までのわずか 16 日間でした。しかし、この短い訪問が、日本とキューバの友好の礎となり、今回の記念行事にも結び付いているという事実は、歴史の奥深さとともに両国の不思議な縁（えにし）を物語ってやみません。

こうした 400 年前にさかのぼる日本とキューバの関係を現代につなげたのが、仙台育英学園の取り組みでした。

1999 年、当時の在日キューバ大使ご夫妻の学園訪問をきっかけに始まった交流は、キューバの高校との姉妹校締結、交換留学生の派遣などに結実。2001 年には学園側の手で、ハバナの旧市街に支倉常長像が建立されました。

カリブ海に浮かぶキューバと仙台との距離は約 11,850<sup>km</sup>。遣欧使節団の旅路の労苦は想像もできませんが、その史実は日本とキューバの友好・交流の原点として 400 年の時空を超え、これからも語り継がれることでしょう。

仙台育英学園での記念行事を機に、両国関係がますます緊密なものとなり、様々な分野での協力がさらに発展、促進されていくことをご祈念申し上げます。